

財務部

主要項目の動向

個人消費

おおむね横ばい

Point

管内経済は、国内経済情勢を主因に、観光の好調さに陰りがみられはじめ、雇用情勢は厳しくなってきており、個人消費は横ばいを保っているものの、全体としてみると弱含んでいます。

主要項目の動向

觀光

好調さに陰り

Point

管内経済は、国内経済情勢を主因に、観光の好調さに陰りがみられはじめ、雇用情勢は厳しくなってきており、個人消費は横ばいを保っているものの、全体としてみると弱含んでいます。

主要項目の動向

雇主情勢

厳しくなつてきている

Point

管内経済は、国内経済情勢を主因に、観光の好調さに陰りがみられはじめ、雇用情勢は厳しくなってきており、個人消費は横ばいを保っているものの、全体としてみると弱含んでいます。



新規求職者はほぼ横ばいで推移している一方で、新規求人件数は減少しており、有効求人倍率（季調直）も低下してきていま

住宅建設 住宅建設を新設住宅着工戸数でみると、改正建築基準法の影響が残っているものの、前年を上回つており、持ち直しの動きがみられます。

その他の 項目の動向

! 総括判断

H20年10月

全体としてみると足踏み状態にある

H21年1月

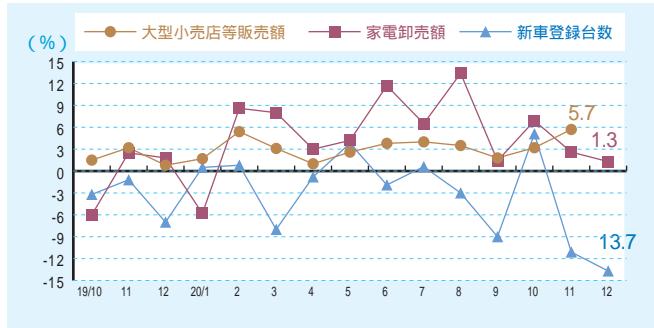
全体としてみると弱含んでいる

前回との比較

公共事業 公共事業の動向を公共
工事前払金保証請負額（累計）でみ
ると、前年を上回っています。

管内経済情勢報告(平成21年1月)

大型小売店等販売額、家電卸売額、新車登録台数(前年比)

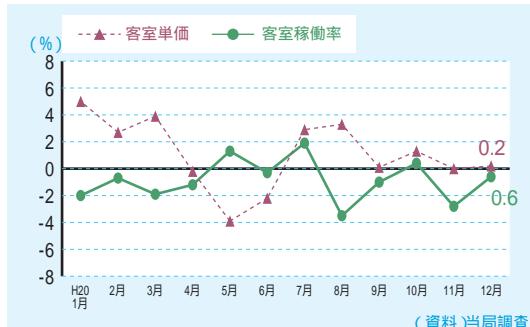


電販売は、大型家電量販店の新規出店の影響などもあり、前年を上回っています。新車販売は、小型乗用車は増加しているものの、普通車及び軽自動車は減少していることから、前年を下回っています。中古車販売は前年並みとなっています。

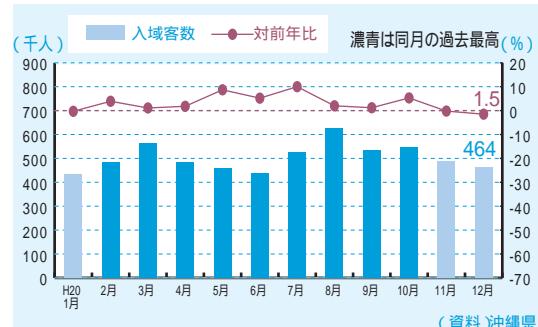
このように、個人消費は、全体としておおむね横ばいで推移しています。



主要ホテルの客室稼働率(前年差) 客室単価(前年比)



観光入込客数(前年比)



「このように、観光は好調さに陰化の影響等を懸念する声が強まっています。先行きについては、国内経済悪化が見え始めています。

有效求人倍率



新規求人数(前年比)



20年度通期は、全産業で3・3%の増益見込みとなっています。

気予測調査（20年10・12月期）でみると、20年度下期は、全産業で6・6%の増益見込みとなっています。

は、民需の減少から前年を下回つて
います。

全体としてみると、生産活動は少
しき続き弱含みで推移しています。

いふことなどから、「下降」超幅が大幅に拡大しています。非製造業では、建設などで「下降」とする企業が減少していることから、「下降」超幅が縮小しています。
この結果、全産業では、「下降」超幅が拡大しています。

生産活動 製造業の生産活動は、
食料品では、食肉加工品は低調なも